

薬

Art gallery

第三
展示室

絵葉書

筆書きが主流だった時代なので縦のデザインのものも多く、そのようなところにも時代を感じます。



骨董コレクションの一分野に絵葉書や古写真、ブロマイドなどの収集があります。さらには、ポスターや昔の高級なチラシともいわれる引き札などを含めて、紙もの、と総称されます。医薬品関連に限ってみてもその種類や数は膨大で、かつデザイン的にも優れたものが多く、医薬品の歴史を振り返る上で非常に参考となる資料といえます。今号では製薬会社がついた絵葉書のうち主に売薬(OTC医薬品)の広告が描かれたものを取り上げます。これらの医薬品の宣伝が入った絵葉書は、メーカーが小売店に向けて送るダレクトメールに相当するものだと思われます。そして昔はこれらの絵葉書は医薬品が小売店に納入される際にオマケとして添付され、それを小売店が消費者向けに宣伝として配られたケースもあったと思われます。そして中には消費者がその葉書に注文個数などを記入してメーカーや小売店へ注文書として送った、そんな使われ方をした絵葉書もあったのではないのでしょうか。これらのほとんどは、明治から昭和20年(1945年)の終戦以前のものであることを考えますと、デザインの新鮮さや今も退色せず鮮やかな色彩を残している印刷技術に感服すると共に、関東大震災や太平洋戦争をくぐり抜け、よくぞ今まで捨てられず残っていたものだと感心してまいります。

現代ではパソコンを使ったデザインが主流ですが、昔の絵葉書や薬のパッケージは画家や絵描きが描いていたと思われまふ。描かれている人物の一人ひとりの生き生きとした表情や緻密な描写などが実に見事です。それは日本人のまじめで手を抜かない仕事によるもので、今の職人にも引き継がれています。

本コーナーで、今後「古い写真」もご紹介いたしますが、絵葉書の中には写真を取り込んだデザインのものもあり、時代の先端を行く販促品だったのかも知れません。今回の絵葉書や先にご紹介したマッチや吸い取り紙にもいえることですが、それぞれの分野でバラエティに富んでいることが社会を豊かにする条件のひとつではないだろうかと思っております。

